

## 審査意見への対応を記載した書類（6月）

### （目次）人間看護学研究科 人間看護学専攻（D）

1. 本学が掲げるディプロマ・ポリシー「DP-A:学際的・国際的な視野に立った健康支援活動・研究活動・学術交流を行い、生涯にわたって人々の健康と安寧に貢献する力を身につけている」ことについて、「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の「資料11 人間看護学研究科博士後期課程におけるDP・CP・APの関係図」を確認すると、CP-Aに基づき配置される授業科目「看護学研究特論Ⅰ・Ⅱ」によって、当該資質・能力を修得させる計画であると見受けられる。しかしながら、授業科目「看護学研究特論Ⅰ」及び「看護学研究特論Ⅱ」のシラバスを確認すると、「学際的・国際的」な授業内容になっているとは見受けられず、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに整合した授業内容になっているのか疑義があることから、ディプロマ・ポリシーを適切に達成できるとは判断することができない。このため、DP-Aに掲げる資質・能力を修得させるために、本DPに対応するカリキュラム・ポリシーに基づき配置される授業科目の内容が適切であることについて、明確かつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（是正事項）・・・3

2. 「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」の「1（5）本専攻（博士後期課程）の特色」において、「情報工学や教育工学等の工学的視点や技術は、教育や研究の分野のみならず、社会の変化や地域のニーズへの迅速・的確な把握と対応のためにも必要不可欠と考えている」と説明していることを踏まえ、授業科目「看護教育工学特論」を配置しているように見受けられるが、本科目は選択科目であることから、当該科目を履修しない学生に対して、どのようにして、DP-Bに掲げる「社会の変化や地域のニーズを的確に捉え対応できる」資質・能力を修得させるのか判然とししない。このため、「情報工学や教育工学等の工学的視点や技術は、・・・社会の変化や地域のニーズへの迅速・的確な把握と対応のためにも必要不可欠」と説明していることを踏まえ、授業科目「看護教育工学特論」を選択科目とすることの妥当性について具体的に説明するか、適切に改めること。

（是正事項）・・・12

3. 例えば、授業科目「看護学研究特論Ⅰ」について、シラバスを確認すると、授業目的は「各研究アプローチ等を用いた研究から看護現象を読み解く能力を育成する」こととしているが、到達目標に「看護現象を読み解く能力」に対応する目標が設定されておらず、授業目的と到達目標が整合しているのか判然とししない。また、授業科目「看護実践科学特論」の到達目標は「健康課題を解決することの意義を説明できる」と設定されており、博士後期課程に相当しない学士課程相当の目標が設定されているように見受けられるなど、各授業科目の到達目標が適切に設定されているのか疑義がある。このため、授業目的や博士後期課程の教育研究水準に照らして、シラバスにおける各授業科目の到達目標が適切に設定されているか網羅的に見直すとともに、必要に応じて適切に改めること。

（是正事項）・・・17

4. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教育研究実施組織の将来構想を明確にすること。

(改善事項)・・・23

5. 「意思決定を証する書類」について、原本証明が見受けられないことから、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)」に従い、適切に改めること。

(是正事項)・・・24

## (是正事項) 人間看護学研究科 人間看護学専攻 (D)

1. 本学が掲げるディプロマ・ポリシー「DP-A：学際的・国際的な視野に立った健康支援活動・研究活動・学術交流を行い、生涯にわたって人々の健康と安寧に貢献する力を身につけている」ことについて、「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の「資料 11 人間看護学研究科博士後期課程における DP・CP・AP の関係図」を確認すると、CP-A に基づき配置される授業科目「看護学研究特論Ⅰ・Ⅱ」によって、当該資質・能力を修得させる計画であると見受けられる。しかしながら、授業科目「看護学研究特論Ⅰ」及び「看護学研究特論Ⅱ」のシラバスを確認すると、「学際的・国際的」な授業内容になっているとは見受けられず、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに整合した授業内容になっているのか疑義があることから、ディプロマ・ポリシーを適切に達成できるとは判断することができない。このため、DP-A に掲げる資質・能力を修得させるために、本 DP に対応するカリキュラム・ポリシーに基づき配置される授業科目の内容が適切であることについて、明確かつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

### (対応)

審査意見をふまえ、ディプロマ・ポリシー「DP-A：学際的・国際的な視野に立った健康支援活動・研究活動・学術交流を行い、生涯にわたって人々の健康と安寧に貢献する力を身につけている」については、CP-A に基づき授業科目「看護学研究特論Ⅰ・Ⅱ」を配置することによって当該資質・能力を修得させる計画であることを再確認した上で、授業内容が適切となるよう見直しを行った。具体的な対応については以下に示す。

授業科目「看護学研究特論Ⅰ」ではディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに整合した授業内容にするために、「授業科目の概要」における「講義等の内容」に、「学際的・国際的な研究の動向」などについて教員から解説することを明記した。さらに、具体的に授業計画の中にも、「海外との共同研究の具体例や学術交流をもとに、健康課題について学際的・国際的な視点から検討する」内容も追加し、本研究科と教育研究における相互協力を促進するための覚書を締結している海外の大学との学術交流も盛り込むこととした。また、課題レポートにおいて学際的・国際的な研究の動向をふまえた説明を求め、知識の定着と DP-A の達成状況を確認する。以上の内容の追加修正に合わせて、授業科目の概要、設置の趣旨を記載した書類および資料、シラバスについて一部追加修正した。

同様に、授業科目「看護学研究特論Ⅱ」においても、自己が取り組む現象を「学際的・国際的な視野のもとで」検討することに意義があるため、シラバスの授業目的に「学際的・国際的な視野をふまえて明確化」、「授業科目の概要」における「講義等の内容」に「学際的・国際的な文献を用いて検討」することを明記し、学生が自己の研究課題と関連する論文を学際的・国際的な視野のもとで検討し説明できる能力を育成する。また、それに合わせて、授業科目の概要、設置の趣旨を記載した書類および資料、シラバスについても一部追加修正した。なお、「看護学研究特論Ⅱ」については、学際的・国際的な教育研究の経験豊富な教員に科目責任者を変更した。

このように、今回の審査意見をふまえ、「看護学研究特論Ⅰ」「看護学研究特論Ⅱ」の授業内容を見直したことで、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーとの整合性が明確となり、この授業の学びによって、「DP-A：学際的・国際的な視野に立った健康支援活動・研究活動・学術交流を行い、生涯にわたって人々の健康と安寧に貢献する力を身につけている」の達成につなが

ることがより明確となった。

(新旧対照表) 基本計画書 (13 頁) 授業科目の概要

新	旧
<p>「看護学研究特論 I」</p> <p><b>【講義等の内容】</b></p> <p>(概要)</p> <p>看護の研究課題を科学的に解明・解決するための研究アプローチ等について、講義する。具体的には、各研究アプローチの特徴や種類、研究の流れ、<u>学際的・国際的な研究の動向</u>などについて教員が解説し、信頼性・妥当性を高めるポイントを提示する。受講生は講義を受けて、ディスカッションを行い、教員からの助言を受けることで、論文投稿を見据えた高度な研究能力を培う。</p> <p><u>(オムニバス／全 15 回)</u></p> <p><u>(⑥ 竹村淳子／3 回)</u></p> <p><u>科目の導入を行い、文献研究のシステマティックレビューやスコopingレビューなどの文献研究の種類と方法について、学際的・国際的な研究の動向をふまえて具体的に講義する。</u></p> <p><u>(③ 藤井誠／2 回)</u></p> <p><u>コホート研究や症例-対照研究などの疫学調査について、種類や方法を具体的に講義する。</u></p> <p><u>(② 牧野耕次／3 回)</u></p> <p><u>・尺度開発における概念分析や因子分析など手順や信頼性・妥当性の検討方法について、具体的に講義する。</u></p> <p><u>・海外との共同研究の具体例や学術交流をもとに、健康課題について学際的・国際的な視点から検討する。</u></p> <p><u>(⑦ 古株ひろみ／3 回)</u></p> <p><u>混合研究法 (mixed methods) における「分析結果の統合方法」や「量・質の異なるデータの意味づけの方法」について、具体的に講義する。</u></p>	<p>「看護学研究特論 I」</p> <p><b>【講義等の内容】</b></p> <p>(概要)</p> <p>看護の研究課題を科学的に解明・解決するための研究アプローチ等について、講義する。具体的には、各研究アプローチの特徴や種類、研究の流れなどについて教員が解説し、信頼性・妥当性を高めるポイントを提示する。受講生は講義を受けて、ディスカッションを行い、教員からの助言を受けることで、論文投稿を見据えた高度な研究能力を培う。</p> <p><u>(オムニバス／全 15 回)</u></p> <p><u>(8 竹村淳子／3 回)</u></p> <p><u>科目の導入と文献研究</u></p> <p><u>(5 藤井誠／2 回)</u></p> <p><u>疫学調査</u></p> <p><u>(4 牧野耕次／2 回)</u></p> <p><u>尺度開発</u></p> <p><u>(9 古株ひろみ／3 回)</u></p> <p><u>質的研究法および混合研究法 (mixed methods)</u></p>

<p>(⑤ 赤澤千春／2回)</p> <p>プログラム開発におけるプログラムの作成や妥当性の確認、評価方法などについて、具体的に講義する。</p> <p>(① 本田可奈子／2回)</p> <p>「研究の健全性」や「研究の不正行為」、倫理審査など研究倫理について具体的に講義する。</p> <p>「看護学研究特論Ⅱ」</p> <p><b>【講義等の内容】</b></p> <p>(概要)</p> <p>(略)</p> <p>具体的には看護現象に関する理論開発の演繹的な手法である概念分析の<u>演習</u>により、<u>学際的・国際的な文献を用いて検討し、自己が取り組む看護現象の概念の理解を深める。</u></p> <p>(略)</p> <p>(⑤ 赤澤千春、① 本田可奈子、8 竹村淳子、9 古株ひろみ、4 牧野耕次/9回) (共同)</p> <p>・自己が取り組む看護現象の概念についてプレゼンテーション（概念分析）と理論構築について<u>学際的・国際的な視野をふまえて</u>討議する</p>	<p>(7 赤澤千春／3回)</p> <p>プログラム開発</p> <p>(3 本田可奈子／2回)</p> <p>研究倫理</p> <p>「看護学研究特論Ⅱ」</p> <p><b>【講義等の内容】</b></p> <p>(概要)</p> <p>(略)</p> <p>具体的には看護現象に関する理論開発の演繹的な手法である概念分析により、自己が取り組む看護現象の概念の理解を深める。</p> <p>(略)</p> <p>(3 本田可奈子、7 赤澤千春、8 竹村淳子、9 古株ひろみ、4 牧野耕次/9回) (共同)</p> <p>・自己が取り組む看護現象の概念についてプレゼンテーション（概念分析）と理論構築について討議する。</p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類【本文】(17～18頁)

新	旧
<p>(17～18頁)</p> <p>(2) 教育課程の特色</p> <p>(略)</p> <p><b>【共通科目】</b></p> <p>(略)</p> <p>ア「看護学研究特論Ⅰ」</p>	<p>(17～18頁)</p> <p>(2) 教育課程の特色</p> <p>(略)</p> <p><b>【共通科目】</b></p> <p>(略)</p> <p>ア「看護学研究特論Ⅰ」</p>

<p>少子高齢化、医療技術の進歩、価値観の多様化の中にあつて、人命・人権の尊重に立脚し、豊かな人間生活と地域社会を支える看護と看護学の創造に貢献する上で、基礎となる研究能力を育成する。具体的には、<u>学際的・国際的な研究の動向をふまえて健康課題を検討し、生涯にわたり学際的・国際的な視点から人々の健康と安寧に貢献できる、質の高い看護学教育・研究者および保健・医療・福祉各機関における管理的指導者としての高度看護専門職にとって必要な、各研究アプローチ等を用いた研究から看護現象を読み解く能力を育成する。</u></p>	<p>少子高齢化、医療技術の進歩、価値観の多様化の中にあつて、人命・人権の尊重に立脚し、豊かな人間生活と地域社会を支える看護と看護学の創造に貢献する上で、基礎となる研究能力を育成する。具体的には、生涯にわたり学際的・国際的な視点から人々の健康と安寧に貢献できる、質の高い看護学教育・研究者および保健・医療・福祉各機関における管理的指導者としての高度看護専門職にとって必要な、各研究アプローチ等を用いた研究から看護現象を読み解く能力を育成する。</p>
<p>イ「看護学研究特論Ⅱ」</p> <p>地域の健康課題解決に活用するための看護科学の構造と機能について理解し、研究の基盤となる理論構築の力を高めることを目的とする。プログラム開発の基盤となる<u>概念について学際的・国際的な視野をふまえて明確化し、看護学研究特論Ⅰを発展させ理論的基盤にそつた研究方法をデザインできる能力を育成する。さらに、自己の研究課題と関連する論文を学際的・国際的な視野のもとで検討し説明できる能力を育成する。</u></p>	<p>イ「看護学研究特論Ⅱ」</p> <p>地域の健康課題解決に活用するための看護科学の構造と機能について理解し、研究の基盤となる理論構築の力を高めることを目的とする。プログラム開発の基盤となる<u>概念の明確化と、看護学研究特論Ⅰを発展させ理論的基盤にそつた研究方法をデザインできる能力を育成する。</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類【資料10】【資料11】(54頁、55頁)

新	旧
<p>(54頁) 【資料10】</p> <p>「看護学研究特論Ⅰ」 【教育課程の概要】</p> <p>看護の研究課題を科学的に解明・解決するための研究アプローチ等について、講義する。具体的には、各研究アプローチの特徴や種類、研究の流れ、<u>学際的・国際的な研究の動向</u>などについて教員が解説し、信頼性・妥当性を高めるポイントを提示する。受講生は講義を受けて、</p>	<p>(54頁) 【資料10】</p> <p>「看護学研究特論Ⅰ」 【教育課程の概要】</p> <p>看護の研究課題を科学的に解明・解決するための研究アプローチ等について、講義する。具体的には、各研究アプローチの特徴や種類、研究の流れなどについて教員が解説し、信頼性・妥当性を高めるポイントを提示する。受講生は講義を受けて、ディスカッションを行い、教員</p>

ディスカッションを行い、教員からの助言を受けることで、論文投稿を見据えた高度な研究能力を培う。

「看護学研究特論Ⅱ」

【教育課程の概要】

(略)

具体的には看護現象に関する理論開発の演繹的な手法である概念分析の演習により、学際的・国際的な文献を用いて検討し、自己が取り組む看護現象の概念の理解を深める。

(55 頁)

【資料 11】

【CP に示した能力を習得するための設置科目・科目の目的】

【共通科目 (必修)】

看護学研究特論Ⅰ・Ⅱ

少子高齢化、医療技術の進歩、価値観の多様化の中にあつて、人命・人権の尊重に立脚し、豊かな人間生活と地域社会を支える看護と看護学の創造に貢献する上で、基礎となる研究能力を育成する。具体的には、学際的・国際的な研究の動向をふまえて健康課題を検討し、生涯にわたり学際的・国際的な視点から人々の健康と安寧に貢献できる、質の高い看護学教育者・研究者および保健・医療・福祉各機関における管理的指導者としての高度看護専門職にとって必要な、各研究アプローチ等を用いた研究から看護現象を読み解く能力を育成する。また、地域の健康課題解決に活用するための看護科学の構造と機能について理解し、研究の基盤となる理論構築の力を高めることを目的とする。プログラム開発の基盤となる概念について学際的・国際的な視野をふまえて明確化し、看護学研究特論Ⅰを発展させ理論的基盤にそつた研究方法をデザインできる能力を育成する。さらに、自己の研究課題と関連する論文を学際

からの助言を受けることで、論文投稿を見据えた高度な研究能力を培う。

「看護学研究特論Ⅱ」

【教育課程の概要】

(略)

具体的には看護現象に関する理論開発の演繹的な手法である概念分析により、自己が取り組む看護現象の概念の理解を深める。

(55 頁)

【資料 11】

【CP に示した能力を習得するための設置科目・科目の目的】

【共通科目 (必修)】

看護学研究特論Ⅰ・Ⅱ

少子高齢化、医療技術の進歩、価値観の多様化の中にあつて、人命・人権の尊重に立脚し、豊かな人間生活と地域社会を支える看護と看護学の創造に貢献する上で、基礎となる研究能力を育成する。具体的には、生涯にわたり学際的・国際的な視点から人々の健康と安寧に貢献できる、質の高い看護学教育者・研究者および保健・医療・福祉各機関における管理的指導者としての高度看護専門職にとって必要な、各研究アプローチ等を用いた研究から看護現象を読み解く能力を育成する。さらに、地域の健康課題解決に活用するための看護科学の構造と機能について理解し、研究の基盤となる理論構築の力を高めることを目的とする。プログラム開発の基盤となる概念の明確化と、看護学研究特論Ⅰを発展させ理論的基盤にそつた研究方法をデザインできる能力を育成する。

<p>的・国際的な視野のもとで検討し説明できる能力を育成する。</p>	
-------------------------------------	--

(新旧対照表) シラバス (2~5 頁)

新	旧
<p>(2頁)</p> <p>「看護学研究特論 I」</p> <p><b>【授業目的】</b></p> <p>少子高齢化、医療技術の進歩、価値観の多様化の中にあつて、人命・人権の尊重に立脚し、豊かな人間生活と地域社会を支える看護と看護学の創造に貢献する上で、基礎となる研究能力を育成する。具体的には、<u>学際的・国際的な研究の動向</u>をふまえて健康課題を検討し、生涯にわたり学際的・国際的な視点から人々の健康と安寧に貢献できる、質の高い看護学教育・研究者および保健・医療・福祉各機関における管理的指導者としての高度看護専門職にとって必要な、各研究アプローチ等を用いた研究から看護現象を読み解く能力を育成する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各研究アプローチ等の特徴や種類、<u>研究の流れ</u>、<u>学際的・国際的な研究の動向</u>などについて説明できる。</li> </ul> <p><b>【授業の概要】</b></p> <p>看護の研究課題を科学的に解明・解決するための研究アプローチ等について、講義する。具体的には、各研究アプローチの特徴や種類、研究の流れ、<u>学際的・国際的な研究の動向</u>などについて教員が解説し、信頼性・妥当性を高めるポイントを提示する。受講生は講義を受けて、ディスカッションを行い、教員からの助言を受けることで、論文投稿を見据えた高度な研究能力を培う。</p>	<p>(2頁)</p> <p>「看護学研究特論 I」</p> <p><b>【授業目的】</b></p> <p>少子高齢化、医療技術の進歩、価値観の多様化の中にあつて、人命・人権の尊重に立脚し、豊かな人間生活と地域社会を支える看護と看護学の創造に貢献する上で、基礎となる研究能力を育成する。具体的には、生涯にわたり学際的・国際的な視点から人々の健康と安寧に貢献できる、質の高い看護学教育・研究者および保健・医療・福祉各機関における管理的指導者としての高度看護専門職にとって必要な、各研究アプローチ等を用いた研究から看護現象を読み解く能力を育成する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各研究アプローチ等の特徴や種類、手順などについて説明できる。</li> </ul> <p><b>【授業の概要】</b></p> <p>看護の研究課題を科学的に解明・解決するための研究アプローチ等について、講義する。具体的には、各研究アプローチの特徴や種類、研究の流れなどについて教員が解説し、信頼性・妥当性を高めるポイントを提示する。受講生は講義を受けて、ディスカッションを行い、教員からの助言を受けることで、論文投稿を見据えた高度な研究能力を培う。</p>

### 【授業計画】

以下の各研究アプローチ等の特徴や種類、研究の流れなどについて教員が解説する。

受講生は教員の助言を受けながら①各研究アプローチ等の特徴や種類、研究の流れ、学際的・国際的な研究の動向などについて、さらに②解説された信頼性・妥当性を高めるポイント、について、ディスカッションすることで、全講義終了後に課題のレポートを作成する。

課題レポート：①各研究アプローチ等の特徴や種類、研究の流れについて、学際的・国際的な研究の動向もふまえて説明し、それぞれの信頼性・妥当性を高めるポイントについて、2000文字程度でまとめる。②本科目で取り上げた研究アプローチ等の中から、自身の研究テーマにより近い研究論文を選択し、指定した様式に沿ってクリティークを実施する。

#### 第1-3回（竹村）

科目の導入を行い、文献研究のシステマティックレビューやスコーピングレビューなどの文献研究の種類と方法について、学際的・国際的な研究の動向をふまえて具体的に講義する。

#### 第4・5回（藤井）

コホート研究や症例-対照研究などの疫学調査について、種類や方法を具体的に講義する。

#### 第6・7回（牧野）

尺度開発における概念分析や因子分析など手順や信頼性・妥当性の検討方法について、具体的に講義する。

#### 第8-10回（古株）

混合研究法（mixed methods）における「分析結果の統合方法」や「量・質の異なるデータの意味づけの方法」について、具体的に講義する。

#### 第11-12回（赤澤）

プログラム開発におけるプログラムの作成や妥当性の確認、評価方法などについて、具体的に講義する。

#### 第13回（牧野）

海外との共同研究の具体例や学術交流をもとに、健康課題について学際的・国際的な視点

### 【授業計画】

以下の各研究アプローチ等の特徴や種類、研究の流れなどについて教員が解説する。

受講生は教員の助言を受けながら①各研究アプローチ等の特徴や種類、研究の流れなどについて、さらに②解説された信頼性・妥当性を高めるポイントについて、ディスカッションすることで、全講義終了後に課題のレポートを作成する。

課題レポート：各研究アプローチ等の特徴や種類、研究の流れについて説明し、それぞれの信頼性・妥当性を高めるポイントについて、2000文字程度でまとめる。

#### 第1-3回（竹村）

科目の導入を行い、文献研究のシステマティックレビューやスコーピングレビューなどの文献研究の種類と方法を具体的に講義する。

#### 第4・5回（藤井）

コホート研究や症例-対照研究などの疫学調査について、種類や方法を具体的に講義する。

#### 第6・7回（牧野）

尺度開発における概念分析や因子分析など手順や信頼性・妥当性の検討方法について、具体的に講義する。

#### 第8-10回（古株）

混合研究法（mixed methods）における「分析結果の統合方法」や「量・質の異なるデータの意味づけの方法」について、具体的に講義する。

#### 第11-13回（赤澤）

プログラム開発におけるプログラムの作成や妥当性の確認、評価方法などについて、具体的に講義する。

<p>から検討する。</p> <p>第14回・15回（本田）</p> <p>「研究の健全性」や「研究の不正行為」、倫理審査など研究倫理について、具体的に講義する。</p> <p>（4頁）</p> <p>「看護学研究特論Ⅱ」</p> <p>【教員】（○：科目責任者）</p> <p>○赤澤千春、本田可奈子、竹村淳子、古株ひろみ、牧野耕次</p> <p>【授業目的】</p> <p>地域の健康課題解決に活用するための看護科学の構造と機能について理解し、研究の基盤となる理論構築の力を高めることを目的とする。プログラム開発の基盤となる概念について学際的・国際的な視野をふまえて明確化し、看護学研究特論Ⅰを発展させ理論的基盤にそった研究方法をデザインできる能力を育成する。さらに、自己の研究課題と関連する論文を学際的・国際的な視野のもとで検討し説明できる能力を育成する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>・自己が取り組む現象について学際的・国際的な文献を用いて検討し、概念分析を用いて説明できる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>（略）</p> <p>具体的には看護現象に関する理論開発の演繹的な手法である概念分析の演習により、学際的・国際的な文献を用いて検討し、自己が取り組む看護現象の概念の理解を深める。</p> <p>【授業計画】</p> <p>（略）</p> <p>第5-8回</p> <p>自己が取り組む看護現象の概念についてプレ</p>	<p>第14回・15回（本田）</p> <p>「研究の健全性」や「研究の不正行為」、倫理審査など研究倫理について、具体的に講義する。</p> <p>（4頁）</p> <p>「看護学研究特論Ⅱ」</p> <p>【教員】（○：科目責任者）</p> <p>○本田可奈子、赤澤千春、竹村淳子、古株ひろみ、牧野耕次</p> <p>【授業目的】</p> <p>地域の健康課題解決に活用するための看護科学の構造と機能について理解し、研究の基盤となる理論構築の力を高めることを目的とする。プログラム開発の基盤となる概念の明確化と、看護学研究特論Ⅰを発展させ理論的基盤にそった研究方法をデザインできる能力を育成する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>・自己が取り組む現象について概念分析を用いて説明できる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>（略）</p> <p>具体的には看護現象に関する理論開発の演繹的な手法である概念分析により、自己が取り組む看護現象の概念の理解を深める。</p> <p>【授業計画】</p> <p>（略）</p> <p>第5-8回</p> <p>自己が取り組む看護現象の概念についてプレ</p>
---	--

<p>ゼンテーション（概念分析）と理論構築について学際的・国際的な視野をふまえて討議/演習</p> <p>（<u>赤澤、本田</u>、竹村、古株、牧野）</p> <p>第9・10回</p> <p>サブストラクシヨンの手法と検討/講義</p> <p>（本田）</p> <p>第11-14回</p> <p>自己の研究テーマと関連する文献のクリティークをプレゼンテーション（サブストラクシヨン）/演習</p> <p>（<u>赤澤、本田</u>、竹村、古株、牧野）</p> <p>第15回</p> <p>地域の健康課題解決に活用する理論構築について総合討議</p> <p>（<u>赤澤、本田</u>、竹村、古株、牧野）</p>	<p>ゼンテーション（概念分析）と理論構築について討議/演習</p> <p>（<u>本田、赤澤</u>、竹村、古株、牧野）</p> <p>第9・10回</p> <p>サブストラクシヨンの手法と検討/講義</p> <p>（本田）</p> <p>第11-14回</p> <p>自己の研究テーマと関連する文献のクリティークをプレゼンテーション（サブストラクシヨン）/演習</p> <p>（<u>本田、赤澤</u>、竹村、古株、牧野）</p> <p>第15回</p> <p>地域の健康課題解決に活用する理論構築について総合討議</p> <p>（<u>本田、赤澤</u>、竹村、古株、牧野）</p>
---	--

(是正事項) 人間看護学研究科 人間看護学専攻 (D)

2. 「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」の「1（5）本専攻（博士後期課程）の特色」において、「情報工学や教育学等の工学的視点や技術は、教育や研究の分野のみならず、社会の変化や地域のニーズへの迅速・的確な把握と対応のためにも必要不可欠と考えている」と説明していることを踏まえ、授業科目「看護教育学特論」を配置しているように見受けられるが、本科目は選択科目であることから、当該科目を履修しない学生に対して、どのようにして、DP-B に掲げる「社会の変化や地域のニーズを的確に捉え対応できる」資質・能力を修得させるのか判然としない。このため、「情報工学や教育学等の工学的視点や技術は、・・・社会の変化や地域のニーズへの迅速・的確な把握と対応のためにも必要不可欠」と説明していることを踏まえ、授業科目「看護教育学特論」を選択科目とすることの妥当性について具体的に説明するか、適切に改めること。

(対応)

審査意見のとおり、授業科目「看護教育学特論」は、「社会の変化や地域のニーズへの迅速・的確な把握と対応のためにも必要不可欠」であり、DP-B に掲げる「社会の変化や地域のニーズを的確に捉え対応できる」資質・能力を修得させるために必須である。

したがって、「看護教育学特論」は必修科目に変更した。この変更に伴い、基本計画書の教育課程等の概要を適切に改めるとともに、設置の趣旨等を記載した書類および資料、シラバスを修正した。

なお、申請時、「看護教育学特論」と「看護臨床疫学・統計学特論」の2科目については、選択必修科目として位置づけており、どちらか1科目（2単位）以上履修することとしていた。そのため、シラバスには2科目ともに（選択）必修科目と記載していたため、「看護臨床疫学・統計学特論」を選択科目、「看護人間工学特論」を必修科目と明確に記載した。

(新旧対照表) 基本計画書（6頁）教育課程等の概要

新	旧
<p><b>【卒業・修了要件及び履修方法】</b></p> <p>博士後期課程に3年以上在学し、<u>共通科目6単位以上</u>、<u>部門別専門科目のうちいずれかの部門の専門科目3単位</u>、<u>研究科目6単位</u>の合計15単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。</p>	<p><b>【卒業・修了要件及び履修方法】</b></p> <p>博士後期課程に3年以上在学し、<u>共通科目6単位以上</u>（<u>必修科目4単位</u>、<u>選択科目2単位以上</u>）、<u>部門別専門科目のうちいずれかの部門の専門科目3単位</u>、<u>研究科目6単位</u>の合計15単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。</p>

科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
共通科目	看護学研究特論Ⅰ	1前	/	2			○		
	看護学研究特論Ⅱ	1後		2			○		
	看護臨床疫学・統計学特論	1・2前		2			○		
	看護教育工学特論	1・2後		2			○		
	小計(4科目)	—	—	8	2		—	—	—
基盤看護学研究部門	基盤看護学特論	1前	/	2			○		
	基盤看護学演習	1後		1				○	
	小計(2科目)	—		—	3			—	—
看護実践科学研究部門	看護実践科学特論	1前	/	2			○		
	看護実践科学演習	1後		1				○	
	小計(2科目)	—		—	3			—	—
研究科目	特別研究Ⅰ	1通	/	2				○	
	特別研究Ⅱ	2通		2				○	
	特別研究Ⅲ	3通		2				○	
	小計(3科目)	—		—	6			—	—
	合計(11科目)	—	—	18	2		—	—	—

科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
共通科目	看護学研究特論Ⅰ	1前	/	2			○		
	看護学研究特論Ⅱ	1後		2			○		
	看護臨床疫学・統計学特論	1・2前		2			○		
	看護教育工学特論	1・2後		2			○		
	小計(4科目)	—	—	8	2		—	—	—
基盤看護学研究部門	基盤看護学特論	1前	/	2			○		
	基盤看護学演習	1後		1				○	
	小計(2科目)	—		—	3			—	—
看護実践科学研究部門	看護実践科学特論	1前	/	2			○		
	看護実践科学演習	1後		1				○	
	小計(2科目)	—		—	3			—	—
研究科目	特別研究Ⅰ	1通	/	2				○	
	特別研究Ⅱ	2通		2				○	
	特別研究Ⅲ	3通		2				○	
	小計(3科目)	—		—	6			—	—
	合計(11科目)	—	—	18	2		—	—	—

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類【本文】(15～21頁)

新	旧
<p>(15頁)</p> <p>(略)</p> <p>CP-Aは、様々な健康課題に対して学際的・国際的に研究の動向を探求し、生涯にわたって人々の健康と安寧に貢献するための内容を定め、共通科目の必修科目として配置することを定める。CP-Bは、社会の変化や地域のニーズを的確に捉え対応するため、共通科目の<u>必修科目および選択科目</u>として配置することを定める。CP-Cは、本課程に基盤看護学研究部門と看護実践科学研究部門を設けること、また、2つの各研究部門で探求する内容を定め、専門科目として、各特論および演習で養成するDPの能力を定める。CP-Dは、研究科目として、2つの研究部門での特別研究で養成するDPの能力を定める。教育方法は、授業形態および主体的・自律的な学習を推進するための学習方法について定め、教育評価は、各授業の評価方法を定める。</p> <p>《カリキュラム・ポリシー》</p>	<p>(15頁)</p> <p>(略)</p> <p>CP-Aは、様々な健康課題に対して学際的・国際的に研究の動向を探求し、生涯にわたって人々の健康と安寧に貢献するための内容を定め、共通科目の必修科目として配置することを定める。CP-Bは、社会の変化や地域のニーズを的確に捉え対応するため、共通科目の<u>選択必修科目</u>として配置することを定める。CP-Cは、本課程に基盤看護学研究部門と看護実践科学研究部門を設けること、また、2つの各研究部門で探求する内容を定め、専門科目として、各特論および演習で養成するDPの能力を定める。CP-Dは、研究科目として、2つの研究部門での特別研究で養成するDPの能力を定める。教育方法は、授業形態および主体的・自律的な学習を推進するための学習方法について定め、教育評価は、各授業の評価方法を定める。</p> <p>《カリキュラム・ポリシー》</p>

(略)

B. 社会の変化や地域のニーズを的確に捉え、滋賀県における健康課題に対応し、多職種と協働して解決する力を養うため、「共通科目」における必修科目「看護教育工学特論」、選択科目「看護臨床疫学・統計学特論」を配置する。

(17頁)

(2) 教育課程の特色

(略)

共通科目に配置する必修科目によって、看護学研究を行うために基礎となる研究能力や看護現象を読み解く能力、研究の基盤となる理論構築の力を高める。さらに、社会の変化や地域のニーズを的確に捉え、地域の健康課題に対応するための科目を配置している。また、各研究部門において、専門科目の特論から演習、研究科目の特別研究と関連し、発展していくカリキュラムである。

各区分に応じて、以下に示すとおり、各科目の内容および修得する能力を説明する。

#### 【共通科目】

共通科目は、必修科目3科目、選択科目1科目を1年次科目とし、各2単位30時間の履修とする。必修科目である「看護学研究特論Ⅰ」「看護学研究特論Ⅱ」は、学位論文を記載する上で基礎となる研究を遂行し、基盤となる理論構築の力を高めるために必須となる科目である。したがって、前期・後期にかけて、学際的・国際的に研究の動向を探求するとともに、生涯にわたって人々の健康と安寧に貢献し看護学研究を実践するための基盤となる能力を養う。さらに、共通科目の必修科目「看護教育工学特論」、選択科目「看護臨床疫学・統計学特論」では、社会の変化や地域のニーズを的確に捉え、地域の健康課題に対応するため、それぞれの専門的視点から知識および方法論を学ぶ。特に、必修科目である「看護教育工学特論」では、

(略)

B. 社会の変化や地域のニーズを的確に捉え、滋賀県における健康課題に対応するため、多職種と協働して解決する力を養うため、「共通科目」における選択必修科目「看護臨床疫学・統計学特論」「看護人間工学特論」を配置する。

(17頁)

(2) 教育課程の特色

(略)

共通科目に配置する必修科目によって、看護学研究を行うために基礎となる研究能力や看護現象を読み解く能力、研究の基盤となる理論構築の力を高める。さらに、共通科目の選択必修科目では社会の変化や地域のニーズを的確に捉え、地域の健康課題に対応するための科目を配置している。また、各研究部門において、専門科目の特論から演習、研究科目の特別研究と関連し、発展していくカリキュラムである。

各区分に応じて、以下に示すとおり、各科目の内容および修得する能力を説明する。

#### 【共通科目】

共通科目は、必修科目2科目、選択必修科目2科目を1年次科目とし、各2単位30時間の履修とする。必修科目である「看護学研究特論Ⅰ」「看護学研究特論Ⅱ」は、学位論文を記載する上で基礎となる研究を遂行し、基盤となる理論構築の力を高めるために必須となる科目である。したがって、前期・後期にかけて、学際的・国際的に研究の動向を探求するとともに、生涯にわたって人々の健康と安寧に貢献し看護学研究を実践するための基盤となる能力を養う。さらに、共通科目の選択必修科目の「看護臨床疫学・統計学特論」「看護教育工学特論」では、社会の変化や地域のニーズを的確に捉え、地域の健康課題に対応するため、それぞれの専門的視点から知識および方法論を学ぶ。特に、「看護教育工学特論」では、総合大学の強

<p>総合大学の強みを活かし、人間看護学研究科教員と共同研究している工学研究科教員をオムニバスで配置 (略)</p> <p>(20-21 頁) (2) 配当年次 【1 年次】 共通科目、専門科目、研究科目を履修する。 ①共通科目は、「看護学研究特論Ⅰ」(2 単位) 「看護学研究特論Ⅱ」(2 単位)「看護教育工学特論」(2 単位)を必修科目として履修する。 <u>また、選択科目「看護臨床疫学・統計学特論」(2 単位)を適宜選択し履修する。</u></p> <p>(21 頁) (略) 【2 年次】 「特別研究Ⅱ」(2 単位)を通年で履修する。 研究指導教員、研究指導補助教員の指導のもと、立案した研究計画に沿って研究実施を行う。研究結果は、適宜、国内外において学会発表を行い、他研究者との討議を通して分析や考察の精度を高める。なお、1 年次の履修状況に応じて、<u>共通科目を履修する</u>。1 年次後期で、博士論文研究計画審査会にて研究計画の発表および審査を受けていない学生は、2 年次前期までに審査を受ける。</p>	<p>みを活かし、人間看護学研究科教員と共同研究している工学研究科教員をオムニバスで配置 (略)</p> <p>(20-21 頁) (2) 配当年次 【1 年次】 共通科目、専門科目、研究科目を履修する。 ①共通科目は、「看護学研究特論Ⅰ」(2 単位) 「看護学研究特論Ⅱ」(2 単位)を必修科目として履修する。また、「看護臨床疫学・統計学特論」(2 単位)、「看護教育工学特論」(2 単位) <u>の内 2 単位以上を選択履修する。</u></p> <p>(21 頁) (略) 【2 年次】 「特別研究Ⅱ」(2 単位)を通年で履修する。 研究指導教員、研究指導補助教員の指導のもと、立案した研究計画に沿って研究実施を行う。研究結果は、適宜、国内外において学会発表を行い、他研究者との討議を通して分析や考察の精度を高める。なお、1 年次の履修状況に応じて、<u>共通科目(選択必修科目)を履修する</u>。1 年次後期で、博士論文研究計画審査会にて研究計画の発表および審査を受けていない学生は、2 年次前期までに審査を受ける。</p>
--	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類【資料 10】【資料 11】(54~55 頁)

新	旧
<p>(54 頁)</p> <p>【資料 10】 必要単位： 看護臨床疫学・統計学：<u>選択 2 単位</u> 看護教育工学特論：<u>必修 2 単位</u></p>	<p>(54 頁)</p> <p>【資料 10】 必要単位： 看護臨床疫学・統計学： <u>選択必修 2 単位 1 科目以上</u> 看護教育工学特論：</p>

<p>(55 頁)</p> <p><b>【資料 11】</b></p> <p>CP に示した能力を習得するための設置科目・科目の目的：</p> <p><b>【共通科目 (選択)】</b> 看護臨床疫学・統計学特論</p> <p>科目の目的：</p> <p><b>【共通科目 (必修)】</b> 看護教育工学特論</p>	<p><u>選択必修 2 単位 1 科目以上</u></p> <p>(55 頁)</p> <p><b>【資料 11】</b></p> <p>CP に示した能力を習得するための設置科目・科目の目的：</p> <p><b>【共通科目 (選択必修)】</b> 看護臨床疫学・統計学特論</p> <p>科目の目的：</p> <p><b>【共通科目 (選択必修)】</b> 看護教育工学特論</p>
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類【資料 14】(58 頁)

新						旧					
人間看護学研究科博士後期課程履修モデル (一部抜粋)						人間看護学研究科博士後期課程履修モデル (一部抜粋)					
科目区分	授業科目	配当年次		単位数		科目区分	授業科目	配当年次		単位数	
		学年	学期	必修	選択			学年	学期	必須	選択
共通科目	看護学研究特論 I	1	前	2		共通科目	看護学研究特論 I	1	前	2	
	看護学研究特論 II	1	後	2			看護学研究特論 II	1	後	2	
	看護臨床疫学・統計学特論	1・2	前		2		看護臨床疫学・統計学特論	1・2	前		2
	看護教育工学特論	1・2	後	2			看護教育工学特論	1・2	後		2

(新旧対照表) シラバス (6 頁、8 頁)

新	旧
<p>(6 頁)</p> <p>「看護臨床疫学・統計学特論」</p> <p><b>【共通科目】</b> <u>選択</u></p>	<p>(6 頁)</p> <p>「看護臨床疫学・統計学特論」</p> <p><b>【共通科目】</b> <u>(選択) 必修</u></p>
<p>(8 頁)</p> <p>「看護教育工学特論」</p> <p><b>【共通科目】</b> <u>必修</u></p>	<p>(8 頁)</p> <p>「看護教育工学特論」</p> <p><b>【共通科目】</b> <u>(選択) 必修</u></p>

## (是正事項) 人間看護学研究科 人間看護学専攻 (D)

3. 例えば、授業科目「看護学研究特論Ⅰ」について、シラバスを確認すると、授業目的は「各研究アプローチ等を用いた研究から看護現象を読み解く能力を育成する」こととしているが、到達目標に「看護現象を読み解く能力」に対応する目標が設定されておらず、授業目的と到達目標が整合しているのか判然としない。また、授業科目「看護実践科学特論」の到達目標は「健康課題を解決することの意義を説明できる」と設定されており、博士後期課程に相当しない学士課程相当の目標が設定されているように見受けられるなど、各授業科目の到達目標が適切に設定されているのか疑義がある。このため、授業目的や博士後期課程の教育研究水準に照らして、シラバスにおける各授業科目の到達目標が適切に設定されているか網羅的に見直すとともに、必要に応じて適切に改めること。

### (対応)

審査意見をふまえ、授業目的や博士後期課程の教育研究水準に照らして、シラバスにおける各授業科目の到達目標が適切に設定されているか全科目について網羅的に見直し、授業科目「看護学研究特論Ⅰ」「看護学研究特論Ⅱ」「看護実践科学特論」「看護実践科学演習」の4科目について修正が必要と判断し、授業科目の概要、設置の趣旨等を記載した書類における資料、シラバスを修正した。

授業科目「看護学研究特論Ⅰ」では、授業目的と到達目標の整合をはかるため、「到達目標」に「看護現象を読み解く能力」に対応する目標として、論文のクリティークを課した。また、それに合わせて「成績評価」及び「授業計画」に論文のクリティークを追加した。

また、授業科目「看護学研究特論Ⅱ」では、博士後期課程の教育研究水準をふまえ、到達目標に「自己の研究課題を解決するために必要な理論的基盤を作り、今後の研究活動に活用できる」とした上で、「自己の研究課題と関連する論文のサブストラクションを行って、研究の論理的一貫性を評価する力を培う」ことを追加した。

さらに、授業科目「看護実践科学特論」では、看護ケアの対象を多角的に捉えて看護を提案することを狙いとしている科目であることから、到達目標に「地域および医療・福祉機関で療養または生活する、あらゆる健康レベル、ライフステージにある人々に対する健康課題を解決するための知識、技術、システムを理解した上で、関連する諸理論を用いて分析し、その特徴を説明できる」「療養者やその家族、ケア提供者等の状況および対象の発達課題の特徴をふまえた上で、エビデンスに基づく健康課題解決のための看護の具体的提案ができる」と明記した。その上で、「学生による特定の健康課題解決のための看護の具体的提案」(プレゼンテーションおよびディスカッション)を授業のまとめとすることで授業目的と到達目標、授業内容の整合性を図った。

また、「看護実践科学演習」は、効果的なケアの技術等を臨床に活かす力の育成を狙いとしていることから、得られた知見の臨床での活用可能性の思考促進を図るため、到達目標に「システムティックレビューの知見に基づく看護ケアの展望を提案できる」を明記した。その上で、「学生によるシステムティックレビューの知見をもとにした臨床におけるエビデンスの活用と課題および看護ケアの展望」(プレゼンテーションおよびディスカッション)を授業のまとめとすることで、授業目的と到達目標、授業内容の整合性を図った。

(新旧対照表) 基本計画書 (13 頁、16 頁) 授業科目の概要

新	旧
<p>(13 頁)</p> <p>【講義等の内容】</p> <p>「看護学研究特論Ⅱ」</p> <p>(概要)</p> <p>(略)</p> <p>具体的には、看護現象に関する理論開発の演繹的な手法である概念分析の演習により、学際的・国際的な文献を用いて検討し、自己が取り組む現象の概念の理解を深める。さらに、<u>自己の研究課題と関連する論文のサブストラクションを行って、研究の論理的な一貫性を評価する力を培う。</u></p>	<p>(13 頁)</p> <p>【講義等の内容】</p> <p>「看護学研究特論Ⅱ」</p> <p>(概要)</p> <p>(略)</p> <p>具体的には、看護現象に関する理論開発の演繹的な手法である概念分析により、自己が取り組む現象の概念の理解を深める。さらに、<u>自己の研究テーマと関連する文献を用いてサブストラクションを行い、理論的基盤と使用されている方法論の関連性・一貫性をクリティークする。</u></p>
<p>(16 頁)</p> <p>「看護実践科学特論」</p> <p>(概要)</p> <p>豊かな人間生活と地域社会を継続して支えるための高度な看護実践を科学的に追究し、創造・開発するための諸理論、看護介入に必要な知識を学習する。また、<u>学生の関心のある対象の健康課題について、療養者やその家族、ケア提供者等の状況および対象の発達課題の特徴をふまえた上で、エビデンスに基づく健康課題解決のための看護の具体的提案を行う。</u></p>	<p>(16 頁)</p> <p>「看護実践科学特論」</p> <p>(概要)</p> <p>豊かな人間生活と地域社会を継続して支えるための高度な看護実践を科学的に追究し、創造・開発するための諸理論、看護介入に必要な知識を学習する。また、<u>ライフステージをふまえた個人・家族・集団に対する看護の現状と課題を明らかにする。</u></p>
<p>(オムニバス／全 15 回)</p> <p>(略)</p> <p><u>学生による特定の健康課題解決のための看護の具体的提案について、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。</u></p>	<p>(オムニバス／全 15 回)</p> <p>(略)</p> <p><u>学生による「看護の対象となる人々の健康課題に対する看護の現状と課題」のプレゼンテーションに基づくディスカッションをもとに、看護の展望を教授する。</u></p>
<p>「看護実践科学演習」</p> <p>(概要)</p> <p>看護実践科学特論での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。<u>関心のある課題のシステムティックレビューに基づく知見を整理</u></p>	<p>「看護実践科学演習」</p> <p>(概要)</p> <p>看護実践科学特論での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。<u>システムティックレビューに基づくケアのエビデンスと活用可能</u></p>

<p><u>し、ケアのエビデンスとその活用について学ぶ。さらに、看護ケアの展望を提案する。</u></p> <p>(オムニバス・共同 (一部) / 全 15 回) (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナーA・Bのいずれかを選択し、システムティックレビューを行う。</li> <li>・最後に、<u>学生によるシステムティックレビューの知見をもとにした臨床におけるエビデンスの活用と課題および看護ケアの展望について、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。</u></li> </ul>	<p><u>性を学ぶ。</u></p> <p>(オムニバス・共同 (一部) / 全 15 回) (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナーA・Bのいずれかを選択し、システムティックレビューを行う。</li> <li>・最後に、<u>学生によるシステムティックレビューのプレゼンテーションとディスカッションをもとに看護の展望を教授する。</u></li> </ul>
--	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類【資料 10】(54 頁)

新	旧
<p>(54 頁)</p> <p><b>【資料 10】</b></p> <p><b>【教育課程の概要】</b></p> <p>「看護学研究特論Ⅱ」</p> <p>(略)</p> <p>さらに、<u>自己の研究課題と関連する論文のサブストラクションを行って、研究の論理的一貫性を評価する力を培う。</u></p> <p>「看護実践科学特論」</p> <p>豊かな人間生活と地域社会を継続して支えるための高度な看護実践を科学的に追究し、創造・開発するための諸理論、看護介入に必要な知識を学習する。また、学生の関心のある対象の健康課題について、<u>療養者やその家族、ケア提供者等の状況および対象の発達課題の特徴をふまえた上で、エビデンスに基づく健康課題解決のための看護の具体的提案を行う。</u></p> <p>「看護実践科学演習」</p> <p>看護実践科学特論での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。関心のある課題のシ</p>	<p>(54 頁)</p> <p><b>【資料 10】</b></p> <p><b>【教育課程の概要】</b></p> <p>「看護学研究特論Ⅱ」</p> <p>(略)</p> <p>さらに、<u>自己の研究テーマと関連する文献を用いサブストラクションを行い、理論的基盤と使用されている研究方法論の関連性・一貫性をクリティークする。</u></p> <p>「看護実践科学特論」</p> <p>豊かな人間生活と地域社会を継続して支えるための高度な看護実践を科学的に追究し、創造・開発するための諸理論、看護介入に必要な知識を学習する。また、学生の関心のある対象の健康課題について、<u>ライフステージの特徴をふまえた個人・家族・集団に対する看護の現状と課題を明らかにする。</u></p> <p>「看護実践科学演習」</p> <p>看護実践科学特論での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。関心のある課題のシ</p>

<p>ステマティックレビューに基づく知見を整理し、ケアのエビデンスとその活用について学ぶ。<u>さらに、看護ケアの展望を提案する。</u></p>	<p>ステマティックレビューに基づく知見を整理し、ケアのエビデンスとその活用について学ぶ。</p>
---	---

(新旧対照表) シラバス (2 頁、4 頁、14 頁、16 頁)

新	旧
<p>(2頁) 「看護学研究特論Ⅰ」 【到達目標】 (略) ・各研究アプローチ等の特徴や種類、<u>研究の流れ、学際的・国際的な研究の動向</u>などについて説明できる。 ・各研究アプローチ等の信頼性・妥当性を高めるポイントについても提示できる。 ・<u>本科目で取り上げた研究アプローチ等の中から、自身の研究テーマにより近い研究を選択し、クリティークすることができる。</u></p> <p>【成績評価】 ①学修成果物（<u>課題レポートおよび論文 クリティーク</u>）（70%）</p> <p>【授業計画】 課題レポート：<u>①各研究アプローチ等の特徴や種類、研究の流れについて説明し、それぞれの信頼性・妥当性を高めるポイントについて、2000 文字程度でまとめる。 ②本科目で取り上げた研究アプローチ等の中から、自身の研究テーマにより近い研究論文を選択し、指定した様式に沿ってクリティークを実施する。</u></p> <p>(4頁) 「看護学研究特論Ⅱ」 【到達目標】（一部修正） ・自己の<u>研究課題を解決するために必要な理論的基盤を作り、今後の研究活動に活用できる。</u></p>	<p>(2頁) 「看護学研究特論Ⅰ」 【到達目標】 (略) ・各研究アプローチ等の特徴や種類、手順などについて説明できる。  ・各研究アプローチ等の信頼性・妥当性を高めるポイントについても提示できる。</p> <p>【成績評価】 ①学修成果物（<u>課題レポート</u>）（70%）</p> <p>【授業計画】 課題レポート：<u>各研究アプローチ等の特徴や種類、研究の流れについて説明し、それぞれの信頼性・妥当性を高めるポイントについて、2000 文字程度でまとめる。</u></p> <p>(4頁) 「看護学研究特論Ⅱ」 【到達目標】 ・自己の<u>研究テーマに関連する文献を用いて理論的基盤と研究方法の関連性、一貫性について説明できる。</u></p>

**【授業の概要】**

さらに、自己の研究課題と関連する論文のサブストラクションを行って、研究の論理的一貫性を評価する力を培う。

(14頁)

「看護実践科学特論」

**【到達目標】**

- ・地域および医療・福祉機関で療養または生活する、あらゆる健康レベル、ライフステージにある人々に対する健康課題を解決するための知識、技術、システムを理解した上で、関連する諸理論を用いて分析し、その特徴を説明できる。
- ・療養者やその家族、ケア提供者等の状況および対象の発達課題の特徴をふまえた上で、エビデンスに基づく健康課題解決のための看護の具体的提案ができる。

**【授業の概要】**

豊かな人間生活と地域社会を継続して支えるための高度な看護実践を科学的に追究し、創造・開発するための諸理論、看護介入に必要な知識を学習するまた、学生の関心のある対象の健康課題について、療養者やその家族、ケア提供者等の状況および対象の発達課題の特徴をふまえた上で、エビデンスに基づく健康課題解決のための看護の具体的提案を行う。

**【授業計画】**

第15回 まとめ

(略)

学生による特定の健康課題解決のための看護の具体的提案（プレゼンテーションおよびディスカッション）/演習

(岡本、赤澤、竹村、古株、糸島、千葉、荒川、板谷、川端、辰巳)

**【授業の概要】**

さらに、自己の研究テーマと関連する文献を用いサブストラクションを行い、理論的基盤と使用されている研究方法論の関連性・一貫性をクリティークする。

(14頁)

「看護実践科学特論」

**【到達目標】**

- ・健康課題を解決することの意義を説明できる。
- ・ライフステージをふまえた健康課題に対する看護を分析し、その特徴を説明できる。
- ・対象の発達課題と健康課題をふまえた看護を提案できる。

**【授業の概要】**

豊かな人間生活と地域社会を継続して支えるための高度な看護実践を科学的に追究し、創造・開発するための諸理論、看護介入に必要な知識を学習する。また、学生の関心のある対象の健康課題について、ライフステージの特徴をふまえた個人・家族・集団に対する看護の現状と課題を明らかにする。

**【授業計画】**

第15回 まとめ

(略)

学生による特定の健康課題についての看護の現状と課題のプレゼンテーションおよびディスカッション/演習

(岡本、赤澤、竹村、古株、糸島、千葉、荒川、板谷、川端、辰巳)

<p>(16 頁) 「看護実践科学演習」</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ システマティックレビューの方法を修得する。</li> <li>・ 臨床におけるエビデンスの活用と課題を説明できる。</li> <li>・ システマティックレビューの<u>知見に基づく看護ケアの展望</u>を説明できる。</li> </ul> <p><b>【授業の概要】</b></p> <p>看護実践科学特論での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。関心のある課題のシステマティックレビューに基づく知見を整理し、ケアのエビデンスとその活用について学ぶ。<u>さらに、看護ケアの展望を提案する。</u></p> <p><b>【授業計画】</b> (略)</p> <p>第15回 まとめ/演習</p> <p>学生によるシステマティックレビューの知見をもとにした臨床におけるエビデンスの活用と課題および看護ケアの展望 (プレゼンテーションおよび ディスカッション)</p> <p>(岡本、赤澤、竹村、古株、糸島、千葉、荒川、板谷、川端)</p>	<p>(16 頁) 「看護実践科学演習」</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ システマティックレビューの方法を修得する。</li> <li>・ 臨床におけるエビデンスの活用と課題を説明できる。</li> <li>・ システマティックレビューによる<u>知見</u>を説明できる。</li> </ul> <p><b>【授業の概要】</b></p> <p>看護実践科学特論での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。関心のある課題のシステマティックレビューに基づく知見を整理し、ケアのエビデンスとその活用について学ぶ。</p> <p><b>【授業計画】</b> (略)</p> <p>第15回 まとめ/演習</p> <p>学生によるシステマティックレビューの<u>知見のプレゼンテーション</u></p> <p><u>臨床におけるエビデンスの活用と課題のディスカッション</u> (岡本、赤澤、竹村、古株、糸島、千葉、荒川、板谷、川端)</p>
---	--

(改善事項) 人間看護学研究科 人間看護学専攻 (D)

4. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教育研究実施組織の将来構想を明確にすること。

(対応)

審査意見をふまえ、完成年度の翌年度において、本課程に配置する教員 15 人のうち 5 人に変更が生じたとしても、本課程の教育研究体制が適切に維持、継続可能である教育研究実施組織の将来構想や採用計画について、資料「博士後期課程専任教員人事計画」を添付し説明する。

開設時に本学の定年規程に定める定年 65 歳を迎えている 2 人を含め、完成年度（令和 9 年度）までは定年を超えて雇用する計画であるため、完成年度に 5 人が定年を迎える。

これら研究指導教員の補充について、本計画では、本課程に配置する研究指導補助の専任教員 2 人が充足に努める。くわえて、この度の申請を見合わせた博士の学位取得者である教授 1 人、講師 3 人、並びに、完成年度までに博士号の学位取得が予定される准教授および講師 9 人を合わせた計 13 人が教育・研究業績の蓄積を完成年度までに継続することで研究指導教員や研究指導補助教員として充足に努める。また、現在修士課程において指導補助を行っている 30～40 歳代の若手専任教員 3 人についても博士号の学位取得と業績の積み上げを行い研究指導補助教員として充足にあたる。

これらの人事計画より、令和 12 年から令和 14 年の間に定年を迎える 5 人の研究指導教員の充足にも対応できるものとする。

さらに、今後の退職者の採用についても博士後期課程を担当できる優れた研究業績と教育上の業績を有する者を新規採用していくことで教育研究体制が適切に維持、継続が可能である。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類【本文】(35 頁)

新	旧
(35 頁) (2) 教員の年齢構成 (略) また、申請時には本課程の専任教員の一員とすることができなかったが、人間看護学研究科修士課程の専任教員のうち、博士の学位取得者 <u>4 人</u> および取得予定者が <u>9 人</u> であることから、当該教員が経験を積み、段階的に本課程の教育および研究指導を担当することができるように育成し、本課程の教育を継続して実施する体制を構成する。	(35 頁) (2) 教員の年齢構成 (略) また、申請時には本課程の専任教員の一員とすることができなかったが、人間看護学研究科修士課程の専任教員のうち、博士の学位取得者 <u>2 人</u> および取得予定者が <u>8 人</u> であることから、当該教員が経験を積み、段階的に本課程の教育および研究指導を担当することができるように育成し、本課程の教育を継続して実施する体制を構成する。

(是正事項) 人間看護学研究科 人間看護学専攻 (D)

5. 「意思決定を証する書類」について、原本証明が見受けられないことから、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）」に従い、適切に改めること。

(対応)

理事長による原本証明を行い、その写しで差し替える。